

日吉大社自然観察倶楽部通信

No.23 ～新年に祈る～奥総社参拝

H27年1月11日

日吉大社といえば、西本宮と東本宮があり、八王子山の上には奥宮が鎮座しています。ですが、去年その奥に奥総社の新覆屋が建立されたのをご存知でしょうか？今回、神主さんの協力を得て、10名で奥総社に参拝してきました。ご紹介します。

まずは、宮司の馬淵さんから挨拶を頂きました。

「奥総社とは、神宮寺跡に建てられたお宮であり、その神宮寺とは、天台宗の祖・伝教大師最澄上人の父 三津首百枝（みつのおびと ももえ）が子を授からんことを日吉大神に祈願する為に入山し辿り着いた場所で、草庵を建立したのに始まる。」また、「奥総社に参拝することは、神仏習合の始まりに触れることである。」と。神社である日吉大社と、お寺である比叡山延暦寺が隣り合い、共存している。それは、山王祭の神事の中でも例祭(天台座主が参拝され、ご神前に五色の御幣を奉納し、読経される行事)があるという事からも裏付けられます。



次に、社務所でお祓いをして、ルートに入ります。以前訪れた日吉溪谷のルートに登ります。

(⇒通信 22 日吉溪谷；心を癒す森歩きを参照)

ルートに入ると、すぐ左手に、比叡山延暦寺飛地境内の石柱と多宝塔(写真右)がありました。多宝塔とは寺院建築のうち仏塔における形式の一つです。いきなり神仏習合の意味を考えさせられます。



もと木馬道を登ると、薄暗い山道が続きます。そんな場所でも、イズセンリョウの白い実や、倒れてはいましたが、緑から赤色のリンボクの実を見つけることが出来ました。歩いていると、川の水音が近づいてきました。



大宮川に出ると、川原には雪が残っていました。日吉大社や坂本では、雪は数日前に、とけていました。木の陰と川の近くという環境が、雪を残していたのです。

ヒンヤリとした川浴いを進み、大宮川を2回渡ります。左の写真は川を渡り、最後の登りに差し掛かったところです。



川を渡り、最後の急坂を登ると、建物が見えてきました。奥総社に到着です。

まずは、須原さんから、遺構の礎石を前に、発掘調査時の神宮寺跡の説明をしていただきました。

それによると、三津首百枝(最澄の父)は、何かいい匂いに誘われて、この地で行をすることに決めたとか。仏の導きなのか、植物の匂いなのか？ 植物であるならば、ニオイコブシとも呼ばれる

タムシバがこの地の近くに今も自生しています。

渡り廊下跡や建物跡を説明して頂いた後、ついに、奥総社覆屋を開けて頂きました。普段は非公開（扉が閉まっている状態）です。



左がお宮で、右が、神職の須原さん作の伝教大師坐像です。

お宮の下の台の高さは、今回高くしたもので、昔の人は、ひざまずいて拝んでいたもので低かったようです。

右の彫像からは、厳しい修行に耐えながらも、柔らかな笑みを浮かべているような印象を受けました。

この彫像や建物は、日吉大社周辺の整備で伐採した檜を使っていて、また比叡山延暦寺より縁の深い本願堂の古材も頂戴して建てられたようです。この事も神仏習合の一端を表しているように思えます。

奥総社の説明を受けた後、私たちは願い申を書き、納めさせて頂きました。最後に辻田さん作の菊酒（坂本菊のお酒）をお土産に頂き、八王子山を通過して日吉大社に戻りました。良い新年のスタートが切れたと思います。

[日吉大社自然観察倶楽部HP](http://hiyositaishasizenkansatu.jimdo.com)



<http://hiyositaishasizenkansatu.jimdo.com>